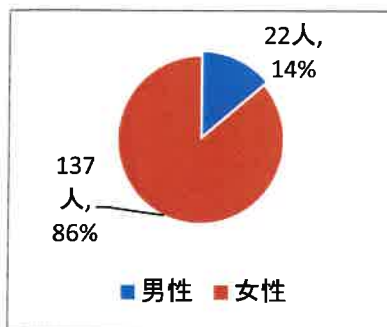


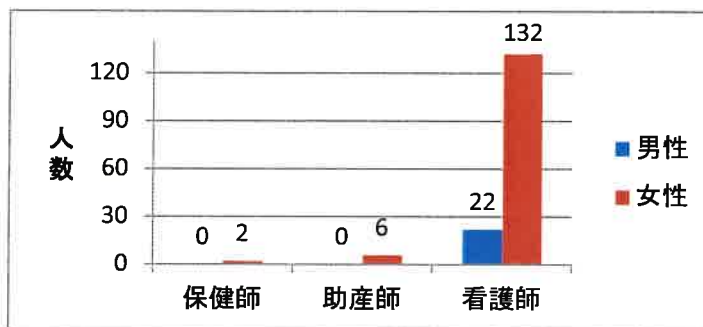
- | | |
|--------|---|
| 1. 日時 | 令和2年11月1日(日) 9:30~12:00 |
| 2. 場所 | タワー111 3階スカイホール |
| 3. 参加者 | 166人 アンケート回収 159枚(アンケート回収率 96% n=166) |
| 4. 内容 | (1)講演「I nurse 日本看護連盟 新基礎研修」より
富山県看護連盟 青年部委員 平野純輝 氏
(2)講演「新人へのエール ~先輩からのメッセージ~」
富山赤十字病院 茂住優乃氏
富山県立中央病院 恒川枝里子氏
(3)講演「夢を実現するために」
富山県県議会議員 自由民主党青年局長 平木柳太郎 先生 |

1. 属性

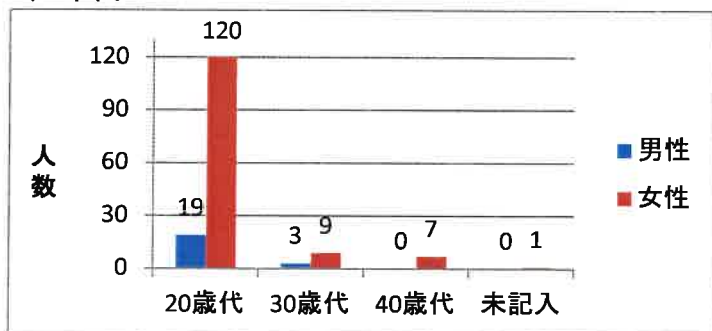
◇ 性別



◇ 職種



◇ 年代



2. 第1部(先輩からのメッセージ)で、特に印象に残った言葉や感想、看護職としての想いなど

- ・「あなたは看護師として受け持ち患者さんに何をしてあげているの?」という言葉に考えさせられた。
 - ・最近先輩に言われた言葉だったので、現状維持に止まらず考えていきたい。
 - ・担当患者を持つようになったので、患者をよく知り、その患者に合った看護を提供していきたい。
 - ・受け持ち患者と関われる部分が増えたと感じ、より積極的に関わっていきたく思った。
 - ・患者のために自分は何ができるかを日々考えて看護していきたい。
 - ・忙しい日々の業務の中でも患者の思いに寄り添うことは大切だと再認識した。
 - ・これから自分もこの言葉を自問自答しながら働こうと思った。
 - ・ルーティンワークに手一杯でその先のケアが果たしてできているか考えさせられた。
 - ・患者の話を受容的に聞くということ
 - ・受け持ち患者のADLが自立していようと、入院される理由に着目して看護につなげていきたい。
 - ・患者の希望を叶えられる看護の実践
 - ・ルーティン業務にプラスして患者のために何をしてあげられるのか考えながら働くことがやりがいにつながる。患者のことを考えて行動したい。
 - ・現在の無力感や情けない気持ちから、今後経験が増えれば「患者のために何ができるのか」と考える事ができるようになるのではないかとこの想いを持つことができた。
 - ・多職種と連携を取りながら患者と家族の思いを聞き、希望に沿った看護を行っていきたく。
 - ・患者の言葉に耳を傾げる事の大切さや、思いに沿った看護を提供するために、多職種間の連携が大切であることを学んだ。
- ・たくさん悩んで患者のためになる看護を見つけていきたいと思った。壁にぶつかることもあり、沢山落ち込むが、成長できるように頑張りたいと思う。 1

- ・先輩の実体験を元にした話でとても励まされたし、自分も頑張っていきたいと思った。
- ・新人の頃は先輩方も私たちと同じ気持ちでいたのだと知り安心した。辛い期間を乗り越えて看護師としての自信を身に付けていったのだと感じた。今後、チーム異動・部署異動等も経験すると思うが、それぞれの場で多くのことを学びたいと思った。
- ・働き始めて半年が経ち、看護師としての自覚をやっと感じられるようになってきて、良かった反面、先輩から頼まれることも増え、失敗して「半年も経ったのに」と思う事もあったが、今回の研修で皆が乗り越えて来た事だと知り、今後も頑張りたいと思った。
- ・3年目の先輩方でも悩むことやわからないことがあると知った。異動がいつになるかは分からないが早めに様々な部署を経験したいと思った。
- ・辛いことがあっても患者の言葉に支えられていると感じることが多々あるので共感できた。
- ・どのような部署に異動になっても頑張ろうと思った。
- ・皆悩んでいることが分かった。支えてくれる仲間がいてくれるので私も頑張れている。
- ・慣れないうちは先輩や同期に相談しながら乗り越えていきたい。
- ・知識・技術・態度で患者と関わる。自分は1人ではない。周りに支えてくれる人がいる。
- ・自分一人と思わず、皆で頑張り、成長できるように考えることが大切だと思った。
- ・分からない事を分からないままにせず責任感を持って頑張っていきたい。
- ・分からないことや、知らないこと、自信のないことは声を出して頼ることも大切。一人で解決しない。
- ・仕事にやりがいを持てるように頑張りたい。
- ・「失敗は経験となり財産となる」「無駄にならない経験はない」
 - ・失敗した後、原因を考えて同じことを繰り返さないようにし、気持ちを切り替える。
 - ・失敗して落ち込むことが多く、焦ることもあった。失敗は元に戻せないため、その後どう行動するかが大事と教わったので、失敗も糧にして成長していきたい。
 - ・自分だけが出来ないと思っていたが、新人時代は出来ないことが当たり前で、失敗から学び、成長していかなければならないと感じた。
 - ・一年目で失敗ばかりで辞めたいと思うことが多いけれど、周りの皆と少しずつ成長していけるよう一歩ずつ歩んでいこうと思った。
 - ・一年目に感じる悩みや葛藤は、皆感じているのだと思い頑張ろうと思えた。様々な経験が得られるようにしていきたい。
- ・「1年目は修行期」2年目からは一人で解決しようとするが、相談すること
- ・みんな新人時代は苦労
- ・「2年目になるとやりがいや楽しみが出てくる」
今は日々の業務に追われ必死だが、やりがい、楽しみを見出せるよう1年目を乗り越えたい。
- ・2年目で一人立ちしたように感じるという言葉が印象に残った。
- ・2年目になると先輩に相談しづらくなることや、部署異動となった際の悩み等、自分にこれから起こり得ることについて聞いてためになった。
- ・厳しい先輩に声をかけることに恐縮してしまう・・・という事に私も同じ体験をしているなと感じた。また、2年目でも「できるよね」という感覚に今から恐怖心を抱いています。
- ・自分のしていきたい看護とは何か、看護観を見直す。
- ・看護職として、自分の目指すものや、自分がどうなっていきたいかなどをしっかりと持っていたいなと感じた。
- ・先輩看護師を超えたいと思う。
- ・明日からの仕事に生かしていきたい
- ・辞めようと思っていたがもう少しやってみようと思った。
- ・在宅医療に関わる看護師は、どう患者に接していかないといけないか考えさせられた。
- ・日々の仕事の中でストレスを感じる事は多々あるが、看護師として仕事をしていく中でやりがいを感じる事が多くあるということは、他の職種と比較して、とても嬉しいことであると改めて実感できた。
- ・看護師を続けていくモチベーションは、患者との関わりや退院されていく姿、という言葉に、やはり看護師は患者のために働いているのだなと感じた。
- ・自分は何歳まで看護師として働いていけるだろうか。やりがいを実感できない。

3.第2部(平木柳太郎先生からのメッセージ)で、印象に残った言葉、感想など

- ・ 周りの10人の平均値が自分になる
- ・ 未来を創造して、「こうなるために、今こうしていこう」と日々頑張りたい。
- ・ 未来は想像するのではなく創造する習慣が大切という言葉にとても感銘を受けた。自分の未来のビジョンを創造していきたいと思う。
- ・ 自分の目標や未来を創造しながら生活、仕事に取り組むことが大切だと感じた。
- ・ 自分の意識を未来に向けてすることで現在が変化する。ビジョンを持つことが大切。ビジョンのある人は必ずゴールに到達する。スタートが同じでも努力の方向が異なれば行きつくところが違う。
- ・ ビジョンがあるかないかでゴールまで到達できるスピードが違う。
- ・ 看護師は人工知能に変わらない職。ただそれに努力の「量」と「方向」が必要だということ。
- ・ ビジョンを持つことが夢への近道だと分かった。自分を知ること、変えることをして、ロードマップの自分になれるよう努力したい。
- ・ 目標を可視化し、ロードマップを描くことで目標を達成できる確率が上がる。
- ・ ロードマップの作成。成功する人は、自分の未来について明確なビジョンを持っている人が多いと記事で読んだことがある。今日は、ビジョンの描き方を知れて良かった。
- ・ 未来を明確に思い描くことで、今やるべきことを考えられた。紙に書き出して目標を明確にしたい。
- ・ 未来のあるべき姿を明確にすることの重要性を知った。
- ・ 自分を変えるためにビジョンや目標を明確化することが大切だと思った。
- ・ 夢を実現するために、その過程がとても重要だと再認識できた。
- ・ 視覚化することで目標が明確になった気がした。
- ・ 目標を明確に、可視化し、逆算して行動する方が充実した人生になる。
- ・ 目標を紙に書いた人の方がお金持ちになる。
- ・ 未来の自分をまだ思い描いていないので、このままではダメだと言われてグサツときた。未来の自分を考える良い機会になった。
- ・ 素敵な人生をクリエイトするための技法を学べた。
- ・ 未来の自分をつくるのは今の自分であることを感じ、人生デザインの必要性が分かった。
- ・ 自分分析、目標の明確化をしていく
- ・ 描いた未来、目標は直接的すぎる方が丁度よい。
- ・ 自身の夢を具体的に文字で書くことがなかったが、今回自分の夢を声に出すことや、文字で書くことで、実現する感じがした。
- ・ 「未来を残すための目標には数字を伴わせなければいけない」
 - ・ 具体的に数字を入れて目標を明確にしたいと思う。
 - ・ 目標は、具体的に期限を決めて設定することで実現までが近くなると聞き、今後実践していきたいと思った。
 - ・ 12年後の自分を考えて、引き算することでプロセスを可視化することができた。ビジョンを見失わないようにしたい。
 - ・ 人生設計において、逆算することで、今自分がすべきことを明確にできると感じた。現在のことだけではなく、先のことを今考える必要がある、とも感じた。
 - ・ 今後、AIが大半の職業を担っていくことが予想される世の中で、未来の自分の看護師像から逆算して現在の自分の姿を見直していくことで、自分が目指す看護師像に近づき、生き残れる看護師になれると感じた。
- ・ 「自分の声を知ることは、自分を知ることにつながる」という言葉が印象に残った。
 - ・ 自分の声を知ることで緊張をコントロールできる
 - ・ 最近職場で患者に対してため口で話してしまうことを指摘されていたので、実践したいと思った。
 - ・ 自分の声をコントロールすることで自分の話し方が変わる
 - ・ 自分自身を知らなさすぎる。
 - ・ 私自身人前で話すことが苦手で、自信がないことが相手に伝わってしまっているのだろうなと感じていたが、まず自分の声を知ることやってみようと思った。
 - ・ 録音して自分の声を聞くことで、自分の特徴を知り、変えていくことができる。今の自分を変えていきたいので始めてみようと思った。

・「脳は現状維持しようとする」

- ・今まで何となく生きてきて、ビジョンとか目標を考えるのが苦手だったけれど、それを脳に支配されているということかもしれない。社会人として生き残るためにライフスタイルの設定が重要であることを学んだ。
- ・現状維持は後退。意識・ルールを変えないと自分は変わらない。
- ・現状に満足していたら、人は変わることができないことが分かった。

・「誤った努力なら努力しても失敗する」

- ・自分に自信が持てるような講演だった。少しでも自分を変えられるような工夫を普段から心がけていきたい。
- ・30秒間のサイレント・アイズを行ったが、改めて、こんなに長く目を見ることがなかったと感じた。
- ・ストレスの3段階で、2:6:2のパニックゾーンが必要ということを知った。
- ・今はパニックゾーンでできていないことも、成長に応じてストレッチゾーンへ移りできるようになる。パニックゾーンの20%をどう頑張るかが大切。
- ・目に見える情報を発信していく。
- ・看護師でない方の話を聞く機会はあまりないので刺激になった。看護師としての成長を続けていくための方法や姿勢を学ぶことができ、仕事の合間に振り返ってみようと思った。
- ・私たちが自分で考え、声をあげて行動することで未来は変わっていくということを知った。
- ・自分の人生の方が大事
- ・私も法人を立ち上げたい
- ・医療は常に変わり続けている。
- ・医療では、自分の周りで大きなお金が動いている。
- ・医療の未来を知ること。看護以外の社会状況にも目を向ける大切さを学んだ。
- ・皆と同じでいいので、平凡な世界を平凡な仕事量で行いたい。

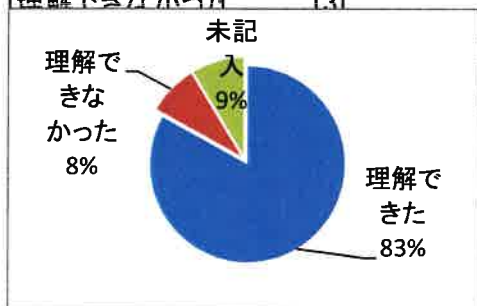
4.氏名を知っている看護職国会議員（複数回答）

単位(人) 割合(%) n=159

石田昌宏	31	19%
高階恵美子	8	5%
阿部俊子	5	3%
木村弥生	1	1%

5.看護と政治の繋がり、看護連盟の役割について理解できましたか。

理解できた	132
理解できなかった	13



- ・看護協会が政策を提案し、看護連盟は政策の実現のために行動する団体であり、看護師・看護職の問題点を解決していくために必要不可欠であると分かったから。
- ・看護連盟・看護協会の違いは何もわからなかったが、2つの機関が協力して政策の計画・実行が行われており、相互に大切な所だと知った。
- ・看護連盟と看護協会の違いが分かった。現場の声を反映させてもらう為にも比例ブロックでの投票に気をつけていきたい。
- ・看護をより良いものにするために制度などを変えるためには、看護協会や看護連盟、そして政治とのつながりがあるからこそ成り立つと分かった。
- ・看護協会は政治活動を行えないため、看護連盟を設立し、政策実現のため活動する国会議員を支援していると理解できた。
- ・看護職がより働きやすく、患者がより良い看護を受けられるよう制度を整えてもらうため、看護連盟が政治と繋がる必要があると分かったから。
- ・社会の変化に応じ、職場環境、仕組みづくりのために活動している。看護に限らず日々の生活に政治が深く関わっている。

- ・ 政策とは無縁と思っていたが、制度を変えるために看護連盟があるということを理解できた。
- ・ 現場の声を国会につなげて、日本の政策として取り組めるようにしていく必要があると思った。
- ・ 看護連盟と看護協会のそれぞれの役割の説明があり分かりやすかった。
- ・ 看護協会・看護連盟の協力が大切であるとわかったため。
- ・ 看護協会・看護連盟が役割分担し協力することで看護の歴史をつくっていることを知ることができた。
- ・ 制度について知ることができたため。
- ・ 1部のスライドショーが分かりやすかった。
- ・ 丁寧で分かりやすい言葉で説明されていたため。
- ・ スライド、パンフレット、講義内容が分かりやすかった。
- ・ 声を上げて、法が変わらなければ現状を変えることは難しい。
- ・ 医療法人などの公的な組織では政治を行うことはできないとわかった。
- ・ 看護連盟を通して看護職の思いを言うことが大きな力になるということ。
- ・ より良い働きやすい環境をつくるために看護連盟が必要と理解できた
- ・ コロナ禍の中、医療と政治をつなげてそれぞれの役割を果たしていくことが大切であるとわかった。
- ・ 医療・看護職だけでなく、裏方で支えて働く方もいると知った。

【理解できなかった】

- ・ 看護連盟が看護師の望みに対して政治を通じて動いていることは理解できたが、どのように動いているのか、また自分たちは看護連盟にどう協力していけば良いのか、まだ理解できなかった。パンフレットを読んでもう一度研修内容の振り返りを行おうと思う。
- ・ 少し難しかった。
- ・ 自分と考えが違った。
- ・ 政治の繋がりが分からなかった。
- ・ 詳しい活動が分からなかった。いまいち分かりにくかった。
- ・ とても難しく、理解できなかった。

5.現場の声

- ・ 人間関係が上手くいかない。
- ・ 人間関係に悩むことが多い。先輩の愚痴なども聞いていけたら、円滑になると思う。
- ・ 異動ばかりで特に信頼関係がない。
- ・ どうしてあんなに人間関係がピリピリするのでしょうか。新人や異動しても、居場所がなくて辞めなくなります。皆さん、どうして看護師として誇りを持って働けるのでしょうか。他人に「すごいね」といわれてもそんな風に思えません。
- ・ 看護師は月給で見ると高く見えるが生涯年収からすると低い。また、月収が高いのは夜勤を行っているからであり体調を崩すと収入に影響が出てしまう。
- ・ 給料が低い。看護師免許を取得し、毎日忙しいながらも十分充実した日々を過ごしているが、仕事量・内容に給料が見合っていない。給料が周りの職種と変わらず、給料が全てではないが頑張っただけで免許を取り働いている意味がない。
- ・ 友人がダブルワークで一晩万単位の夜勤手当をもらっている事を聞いたが、本業の手当が少ない。この差はどうしてなのか知りたい。
- ・ コロナの影響でボーナスが下がった。コロナ禍で辛い思いをしているのに給与が満足にももらえないこと。
- ・ 「帰りたい」という患者は退院させてほしい(制度を作ってほしい)。
- ・ どこにも行けないのでストレスが溜まっている。秋になって、急に責任・求められることが増えた。
- ・ 仕事量が多すぎて、絶対定時で帰れる量ではない。
- ・ 看護の仕事の量が多い。仕事が終わらない。
- ・ サービス残業が多い。残業をつけにくい。
- ・ 残業が多いのに、ほぼ手当がつかない。
- ・ 前残業が当たり前になっているが、前残業代が出ない。給料が安い。
- ・ 残業代の申請が手間なので、タイムカードを普及させてもらいたい。
- ・ 新人だからという理由で残業代を余りつけるなど言われた。
- ・ 新人だからと残業手当がもらえない(先輩に聞くと、新人ではなくても残業手当をもらえる業務が決まっているとのこと)。労働基準法に反していることが病院では多すぎると思うため、改善して欲しい。
- ・ しっかりと休憩を取れない(昼休憩も30分も取れないこともある)。
- ・ 子育て世代の方が多く、子どもや自分が体調不良の際は休みづらい。人員不足。

- ・病棟の看護師が少ない。人が少なく休みがあまりない。
- ・人員不足から、仕事量が上回ることのインシデントが多いと思った。人員の確保・増員は難しいが、何か対策が取れたら良いのと思う事がある。
- ・平日の日勤スタッフの人数が少ない。
- ・日勤深夜や、休日の分娩待機などの制度が辛い。給与が少なく生活を成り立たせるのが困難。
- ・日勤と深夜勤の間が6～7時間しかなく辛い。家庭との両立が難しい。
- ・日勤深夜や、深夜日勤など、体が休まる暇なく次の勤務が始まる。緊張する場面も多く、十分な休息が必要で、休息がないとインシデント・アクシデントにつながるため、勤務間の十分な休息が欲しい。
- ・幼児を抱えて働く困難さ。
- ・新人だから言わなくていいだろう、と情報共有されないことがある。
- ・休日に病院指示の院外研修に行き、交通費も支給されない。
- ・有休で院外の研修に行き、実際は休みが取れていない。
- ・ソーシャル・ディスタンスを守りつつ患者と密な関わりをしなければならない。厳しい労働環境であるということをもっと色々な人に知ってほしい。
- ・急性期から在宅復帰する難しさ。国は医療費削減しようとしているが、慢性期病棟に転棟する患者も多い。本当に病床削減していくことができるのか。
- ・HCUで働く中で、患者の家庭環境や障がいによる新たな制度を考えることがとても多い。1年目なので、患者・家族に説明を求められた時、概要は伝えることができても詳細まで伝えることができていない。PCI、ペースメーカー、経済的サポートなど、研修で企画してもらいたい。
- ・福利厚生がもっと整えばいいのに、と思う。
- ・記録が多い。電子カルテが使いづらい。

6. ホームページを見たことがありますか

